

## 食事摂取量が低下した患者の希望食から考える今後のアプローチについて

【背景】透析患者において、高齢、低アルブミン、CRP 高値、貧血は予後が悪いとされている。当院では6時間の長時間透析を施行しており、食事制限が緩やかである。食事摂取量が低下した患者に対し、何の制限もせず好きな物を食べてよい”すみれ食”という指示がある。”すみれ食”を食べている透析患者が、どういった食べ物を希望する傾向にあるのか、”すみれ食”提供後の変化をまとめ、今後のアプローチに活かしたいと考えた。

【対象】2021年11月1日～2022年10月31日までの1年間で”すみれ食”の指示があった、入院透析患者11名。

【方法】年齢、Alb、CRP、Hb、ドライウエイト、BMIを入院透析患者の平均と比較し、”すみれ食”指示前後での摂取エネルギーを比較・検討した。

【結果】”すみれ食”透析患者は、年齢、CRPが高く、Alb、Hb、ドライウエイト、BMIが低かった。”すみれ食”透析患者11名のうち4名は死亡退院となっていた。摂取エネルギーは、”すみれ食”開始後増加8名、減少2名だった。希望した食べ物は、麺類、アイス、生果物、ご飯のお友が多かった。品数や量を減らして欲しい、食べたい物がわからないとの意見もあった。

【考察】長時間透析における”すみれ食”は、麺類、梅干し、生果物などの一般の透析では制限する食べ物でも、患者の望み通りに提供することができ、摂取エネルギーの増加につながる事が出来た。その一方で、減少例もあり終末期の患者に食べてもらうことの難しさを感じた。食事摂取量が低下した患者の中には、聞き取り自体がストレスだったという症例もあり、今後はメニューを作成しストレスの少ない聞き取りを行う事とした。

【結語】”すみれ食”で希望が多かった食品や料理をもとにメニュー表を作成し、今後のアプローチとして活用したい。